

第 52 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	中川ゼミ	チーム名	中川ゼミ 古川班
タイトル	Covid-19 の流行が小学生の教育に与えた影響の実証分析 ～感染症対策と教育の両立を目指して～		
テーマ群	g) その他		
メンバー	古川恵吾、名倉恵吾、寺見優那、山浦由衣、小田裕美香		
研究計画内容	<p>[研究の背景と目的] 2020年2月27日、当時の安倍首相は新型コロナウイルス（Covid-19）の流行に対処するため、全国の学校に休校を要請した。この休校は教育に様々な影響をもたらしたと報じられている。</p> <p>私達は休校が小学生に与えた影響に注目する。小学生は心身が発達していないため、休校等の影響を受けやすいのではないかと考えるからである。本研究では、この休校・分散登校やオンライン学習が小学生の学習成績や子どもたちのメンタルに与えた影響を研究する。また、休校中のオンライン学習などの取組の効果についても解明したい。</p> <p>[研究の対象と方法] 私達は、国立教育政策研究所教育課程研究センターによる「全国学力・学習状況調査」の平成25年度から令和4年度、都道府県別の国語と算数の結果と質問紙の回答結果を用いて、Covid-19の発生前後で小学生の学力や心身の状態の変化を分析する。分析手法は、最小二乗法や固定効果モデルによる分析を使用する。そして、休校が国語と算数の成績にどのような影響をもたらしたのか、また、児童質問紙のアンケート結果を用いて、子どもたちのメンタルの変化を分析する。</p> <p>[先行研究と本研究の独創性] 先行研究では、公立小学校における財政運営の在り方や学力テストのあり方について研究されてきた。齋藤(2011)では、都道府県の公立小学校で効率的な教育財政運営が実施されたか、非効率ならば、どのような要因があるかを検証した。石川他(2017)では、今後の教育政策をエビデンスに基づく学力テストのあり方を示した。私達の研究では、Covid-19による休校が子どもたちの学力や心身の状態に与えた影響を分析する点に独創性がある。</p> <p>[研究の社会的意義] 子どもたちの学力や心身の状態に与えた影響を分析することで、今後Covid-19のような感染症や自然災害が起これば長期間休校になった際に、子どもたちの学力やメンタルに悪影響を与えないための施策について知ることが出来ると思う。</p> <p><参考文献></p> <ul style="list-style-type: none">・ 齋藤仁(2011年)「公立小学校教育における非効率とその要因分析」会計検査研究 p41-53 https://www.jbaudit.go.jp/koryu/study/mag/pdf/j44d04.pdf・ 石川善樹、伊藤寛武、植村理、田端紳、外山理沙子、中室牧子、分寺杏介、星野崇宏、松岡亮二、山口一大(2017年)「子どもの能力を計測するための学力テストの現在と展望ーエビデンスに基づく教育政策に向けて」RIETI 独立行政法人経済産業研究所 https://www.rieti.go.jp/jp/publications/pdp/17p010.pdf		